二月十六日　日曜日　　僕の気持ちは複雑だった

七時頃から　次第に
自分の存在に気付き出した。

八時半頃には　もうはっきり、
「僕は　起きている。」
と　意識していた。

九時頃　おばあちゃんが　起こしに来た。

「ええかあ、
起きやあー。」

と、いつもの調子で　おばあちゃんが
階段をのぼりながら言った。

「もう　ちょっと　ねるー。
九時半頃に　下に降りるさかい、
めし、頼むわー。」

と、　僕も　いつもの　返事。

「そうかあー、わかった。
ほんまに、起きやあー。」

と　半分、ひとりごとの　おばあちゃん。
階段の手すりを持って、ゆっくり、
ヨタヨタと降りる音がする。

49　僕の気持は複雑だった・・・・・・・・・・・・212

萩原良昭